

## アサリ受精卵ならびに浮遊幼生の成長と生残に与えるグリシンの影響について

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2024-08-06<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 兼松, 正衛, 村上, 恵祐, 内田, 基晴, 三好, 達夫<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010510">https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010510</a>                             |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



## アサリ受精卵ならびに浮遊幼生の成長と生残に与えるグリシンの影響について

兼松正衛・村上恵祐・内田基晴・三好達夫

グリシンに対するアサリ浮遊幼生の耐性は発育段階ごとに高くなり、正常発生率と摂餌個体率に悪影響を与えない濃度と浸漬時間は受精卵では1,000ppm濃度で10分以内、D型期およびアンボ期では10,000ppm濃度で30分以内、フルグロウン期では10,000ppm濃度で60分以内であった。処理のタイミングは、摂餌不良が観察された場合速やかに実施するほど効果が高く、一日の遅れがその後の成長と生残に大きく影響した。種苗生産試験では、着底完了までの生残率はグリシン処理区で37.1%、非処理区で14.0%となり、グリシン浸漬処理がアサリ浮遊幼生の成長と生残を高めることが明らかとなった。

水産技術, 5 (1), 21-26, 2012